

中学生の部親子賞 入選

真の情報の在りか

福島市 遠藤 颯花さん  
福島三中3年

私達受験生にとってニュースを知っているかどうかはその後の人生を決つづける大事な部分です。休み時間などに面接練習をしている友達を見てみると、誰もが「最近気になったニュースは何ですか」という質問に「まづいていました。また、上手く答えられていたように見えても内容が不正確、不十分な人も少なくありませんでした。そんな時に先生方は、「新聞を読みなさい」と勧めて

きます。私は毎日、新聞に目を通してはいるのですが、なぜ先生方は新聞でニュースを知ることができなくて、なぜ先生方は新聞に不信感に思っているのか不思議に思いました。社会の時間に公民でマスメディアの特徴について学びました。インターネットが発達した現代では常に「NEW」と付いた記事を目にします。しかし、我先にと急ぐあまり臆測や証拠のないものが出回ってしまうのだと思うのです。フェイクニュースと呼ばれる、たくさんの人々を惑わしているものがあることに驚きました。

そこで、先生方の述べる「新聞を読みなさい」の本当の意味が分かってくる。新聞からは真の情報を得ることができません。一つ一つのニュースを信頼することができません。そして、新聞は読むだけで出来事がはっきり分かるようになっていきます。ネットでの何個か読まないとなまかなことさえ分からなくなっている状況とは大違いです。

私は、私達受験生のようには知らないといけないからだけでなく、知らないうちから動くでニュースに触れることが大事だと思えます。そのための一番身近なものは新聞だと思います。自分自身も新聞を読むことで何が本当の情報をか見極め、振り回されることのない生き方をしたいです。

昨年夏、娘が書いた作文のテーマは「AI問題」についてだった。私たちの身の回りで精度を上げられた存在になってきたAI。しかし、そのAIによって今後数十年の間に雇用に大きな変化が生じるといわれている。日本でも今ある職業の50%がAIにとって代わられる。つまりAIに仕事を奪われ、

AIに負けない新聞作りを

母 遠藤 陽子さん

娘が低学年の頃、何度か取材を受けたことがありますが、上手に受け答えできず質問にYesかNoで答え、笑ってごまかし、補足は母が代弁するということがあった。きつと記事にしくいだらうなと思ったが、その日の天気、娘の表情や元気の良

さなど、取材した人にか感じとれないワードを見事に盛り込んで素敵な記事に仕上げた。まさに五感を働かせるとはこのことだ。それに、出身地も様々、色々な環境で生活し、考え方も違う記者さんたちがいるからこそ面白い記事が仕上がり、毎日読む新聞も楽しめるのだと思う。

